

平成23年度事業計画書

1. 基本方針

平成20年度に短期大学部、平成21年度には大学が各々、第三者評価を受審し認定をいただいた。また、平成22年7月には文部科学省の学校運営調査委員による実地調査を受けた。

学園の持続的発展のためには、調査委員からも助言を受けたように中長期的ビジョンを確立し、さらに短いスパンである来年度の計画を立てねばならない。

もとより学園の本質は充実した教育にあり、近年はその成果である卒業後の進路について、学生・親ともに強い関心を持っている。また、この卒業後の進路については、学生の募集にも大きく影響を与えている状況である。したがって、学園のさらなる発展のためには、充実した教育→卒業生に対する高い評価→学生の応募というサイクルをスパイラル的に向上させてゆくことが必要であり、この推進のためには先の長中期ビジョンの確立、現状に安住しない意欲と能力のある人材の登用のほか、効率的な経費支出やメリハリの利いた事業施策等、先を見据えた戦略的な運営が必要である。

今後、高等教育界を取り巻く環境はさらに厳しさを増すことが予想される。今年度も以上の状況を十分踏まえたうえで、全教職員が、自らが何を成しうるかというロール(役割)を自覚し、充実した教育と学園の健全経営という課題を推進してゆきたい。

なお、本学園は地域に大きく根差しており、従来通り地域の住民や地域社会から認められ、評価される学園となるよう引き続き推進を行っていく方針である。

学園の設置する学校及び定員は下記の通りとなる。

東海学院大学

・大学院	人間関係学研究科	臨床心理学専攻	入学定員	7人	収容定員	14人
・健康福祉学部	総合福祉学科		入学定員	100人	収容定員	400人
	食健康学科		入学定員	80人	収容定員	320人
			計	180人	計	720人
・人間関係学部	心理学科		入学定員	110人	収容定員	480人
		(3年次編入学定員	20人)			
	子ども発達学科		入学定員	80人	収容定員	320人
			計	190人	計	800人

東海学院大学短期大学部

・児童教育学科	幼児教育専攻	入学定員	100人	収容定員	200人
	初等教育専攻	入学定員	0人	収容定員	50人
	ジュニアスポーツ教育専攻	入学定員	50人	収容定員	50人
		計	150人	計	300人

東海学院大学附属、東海学院大学短期大学部附属

・東海第一幼稚園	1年保育	140人
	2年保育	140人
	3年保育	60人
	計	340人
・東海第二幼稚園	1年保育	60人
	2年保育	60人
	3年保育	40人
	計	160人

2. 教育、研究における重点事項について

① 東海学院大学

- イ 大学機関別認証評価の受審結果（認定）を受けての対応
- ロ 臨床心理士指定大学院実地視察の評価を受けての改善事項の検討
- ハ 「大学教育・学生支援推進事業」【テーマB】「自己表現力を涵養する学士課程・キャリア支援プログラム」に係る教育改革事業の継続と総括
- ニ 競争的資金の獲得を含む質の高い大学教育改革推進プログラム等の国公私立大学を通じた大学教育改革の支援プログラム（GP）への積極的な申請
- ホ 低年次を含めたキャリアサポート体制の整備
- へ 地域の学習拠点としての附属図書館の整備及び公開講座の運営の充実
- ト 各種学外実習の質的向上に向けての実習教育研究センターの活動の充実
- チ 教育研究上の目的の明確化に伴う教育課程の整備
- リ FD・SDプログラムの推進と整備
- ヌ 高大連携の推進と整備
- ル 入学前教育・初年次教育の充実
- ヲ 産学官連携の推進と整備
- ワ 地域食育サポートセンターの推進と整備
- カ 教職課程の整備と教員免許更新制への対応
- ヨ 大学間連携コンソーシアム岐阜との連携強化
- タ 学園内連携 第一幼稚園、第二幼稚園との連携

レ 社会的貢献活動の活性化ならびに地域社会と協働した学生の人材育成

② 東海学院大学短期大学部

- イ 第三者評価結果に基づく指摘事項の改善
- ロ 新専攻課程（ジュニアスポーツ教育）の教育体制の確立及び広報の充実
- ハ 入学前教育の実施
- ニ 産学官連携取り組みの充実
- ホ 春川教育大学との学術交流の充実・拡充
- ヘ 高大連携、地域貢献の充実
- ト 科目等履修生の受け入れ枠の充実・拡充
- チ 教員免許更新講習の企画及び実施
- リ FD・SD講習の実施（四短合同）
- ヌ 新学習指導要領の公布にともなう教職課程教育の見直し
- ル 四短一体化のための学内組織等の統一検討
事務局組織・規程整備、生涯学習センター、委員会組織の統一検討
- ヲ 実習センターの開設（四短合同）
- ワ 子育て支援センター（あそびの森）の充実・「ネイチャーあそびの森」実施の
検討（四短一体化へ向けた取り組みを）
- カ 生涯学習センターの充実
- ヨ 四短一体化に向けた危機管理の充実・規程の整備
- タ 火災を教訓とした防災体制の見直し
- レ 50周年記念行事の検討
- ソ 同窓会組織の活性化と寄付金募集に係る事業の準備
- ツ 昭和時代の卒業生データの電子化
- ネ H24国体への協力・サポート体制の準備
- ナ 大学教育推進プログラム（補助金）申請準備

③ 東海第一幼稚園

- イ 教育方針
 - ・豊かな自然や広い運動場でのびのび育つ子供を目指し、「よく聞き、よく見て、よく考える子」、「思いやりのあるやさしい子」、「じょうぶでひとりだちできる子」
 - ・子どもたちが、友達やその周りの人達との関わりを深め、いろいろなことを感じ考え、思いやりの心が育つようと保育内容を検討していく。
- ロ 主な年間行事
 - ・1学期 家庭訪問、遠足、保育参観、個人懇談、お泊り保育、夏祭り、子育て支援（年間を通じて）
 - ・2学期 信長祭り参加、運動会、大学祭参加、作品展、遠足、もちつき大会、

お楽しみ会（クリスマス）

- ・ 3 学期 人形劇、節分会、個人懇談会、音楽発表会、お別れ遠足、お別れ会

④ 東海第二幼稚園

イ 教育方針

- ・ 生きる力の基礎を確立

幼児の生活や遊びを通して人と関わる力や思考力、感性や表現する力などを育み、人間として社会と関わる人として生きていくための基礎を培う

- ・ やさしい子の育成

友達や先生とかかわって遊ぶ楽しさを味わい、豊かな心を育てる。

- ・ じょうぶな子の育成

伸び伸びと体を動かして遊ぶ楽しさが分かる。

- ・ 考える子の育成

身近な環境に親しみ、感じたことや考えたことを豊かに表現できる。

ロ 主な年間行事

- ・ 1 学期 家庭訪問、遠足、ふれあい参観、陶芸教室、個人懇談、お泊まり保育 保育参観
- ・ 2 学期 運動会、遠足、作品展、クリスマス会、餅つき、親子守口大根収穫体験、個人懇談
- ・ 3 学期 ふれあい参観（凧あげ）、鬼見学、豆まき、学習発表会、お別れ遠足 お別れ会、保育参観

3. 学生・生徒の募集について

① 東海学院大学・東海学院大学短期大学部

平成 23 年度学生募集活動は、V 字回復への期待に応えるために、増加へと転じた今年度の募集戦略を継承し、これまでの学生募集・入試広報に関するデータを総括したうえで、新規企画を立案し実行していかなければならない。

キャリアサポート部、学生部、教務部などの各部門や高大連携推進室とのさらなる連携を図り、学部・学科の枠組みを超越した全学規模で学生募集にあたっていく。

② 平成 23 年度入試広報部の事業計画基本方針

イ 地元重視

ロ 対面説明会への積極参加と誘致

ハ 高校から要請のある模擬講義への積極的参加

ニ 費用対効果の高い広告媒体へのシフト・業者の精選

ホ 進学提携高校の新規開拓

へ 県外指定校推薦認定高校の見直しと県外募集活動の強化

18歳人口の減少や県外流出率が増す中で、資料請求者に対して、効果的なアプローチは何が最善かを考え、出願に結びつけなければならない。

また、経済的な影響から、受験生の「地元志向」はもちろんのこと、資格取得、就職実績が、大学選択する場合の大きな要素となっていることは明らかであり、キャリアサポート部との連携も大切である。模擬講義を実施している外部機関と連携することにより「対岸（外）からの評価」を検証しながら新たな戦略も取り入れることが重要である。

③ 短期大学部の新専攻（ジュニアスポーツ教育専攻）の学生募集

平成23年度より短期大学部に開設するジュニアスポーツ教育専攻は、全国の短期大学の中でも初となる分野の専攻設置である。この専攻は、入学者が減少していた初等教育専攻に代わり、スポーツ活動が盛んでその方面の人材も豊富である本学の特色を生かすために設置するものであるが、その学生募集は全国区で展開する必要がある。

22年度募集活動の中で、この専攻について充分周知されていない地域、高校教員、高校生に対し、5月から渉外活動を実施。そのためにはクラブPR冊子を作成し、ジュニアスポーツ教育専攻に特化して学校訪問を行っていく。

④ 東海第一幼稚園・東海第二幼稚園

イ 東海学院大学人間関係学部子ども発達学科、東海学院大学短期大学部児童教育学科との連携による、子育て支援等の社会的活動を実施する。

ロ 東海学院大学地域サポートセンターの食育支援による、「食育」及び給食内の充実を図る。

ハ ダイレクトメール、新聞折込、ポスター掲示、ホームページなどによる多様な情報展開する。

ニ 保護者（在園・卒園児）の協力も得て、募集活動を推進する。

ホ 「ちびっこ広場アイアイ」の遊びの会の充実、園庭開放や各種行事に地域住民の参加を積極的に呼びかけていく。

へ 未就園児を対象としたイベントを開催する。短大・児童教育学科・専門講師の協力を仰ぎ、その他外部講師を登用する。

ト 携帯を使ったメールシステム『E通信』を活用する。

- ・在園児には、行事の写真を添付し様子を知らせる。
- ・未就園児には、催し物の情報を知らせる。

チ 各学期末にフォト新聞をクラス毎に刊行し、保護者に配布する。

4. 施設・設備の整備について

① 東海学院大学

- ・空調機改修事業
- ・構内山林区域整備事業

(随時必要に応じ、建物・設備の改修を進める予定。詳細は別葉)

② 東海学院大学短期大学部

- ・TGU トレーニングルーム シャワー室設置
- ・情報館外壁 防水工事
- ・第一事務局、食堂の空調機洗浄
- ・新3号館2階屋上防水補修工事
- ・新3号館高圧ケーブルの更新
- ・ピアノ練習室 ドア止め設置・壁補修
- ・エレベーター 定期交換部品の交換
- ・緑化整備工事
- ・ホッケーグラウンド緑化の検討
- ・第3スポーツ寮浴室の改修
- ・昭和時代の卒業生データの電子化に伴う費用

③ 東海第一幼稚園

- ・園長室
- ・事務室の改修
- ・給食室の改修
- ・玄関ロビーの改修

④ 東海第二幼稚園

- ・施設関係
- ・園庭手洗い、足洗い場改修工事
- ・保育室改修工事
- ・職員駐車場改修工事
- ・給食室改修工事
- ・保育室ピアノの買い替え
- ・その他の建物・施設関係の改修工事

5. その他

授業料等について

① 東海学院大学

大学院

入 学 金	200,000 (前年	200,000)
年額 授 業 料	500,000 (前年	500,000)

	年額	教育充実費	220,000	(前年	220,000)
		計	920,000	(前年	920,000)
健康福祉学部		入学金	230,000	(前年	230,000)
総合福祉学科	年額	授業料	640,000	(前年	640,000)
	年額	教育充実費	420,000	(前年	420,000)
		計	1,290,000	(前年	1,290,000)
食健康学科		入学金	230,000	(前年	230,000)
	年額	授業料	680,000	(前年	680,000)
	年額	教育充実費	420,000	(前年	420,000)
		計	1,330,000	(前年	1,330,000)
人間関係学部		入学金	230,000	(前年	230,000)
〔心理学科〕	年額	授業料	640,000	(前年	640,000)
〔子ども発達学科〕	年額	教育充実費	420,000	(前年	420,000)
		計	1,290,000	(前年	1,290,000)
② 東海学院大学短期大学部		入学金	180,000	(前年	180,000)
児童教育学科	年額	授業料	580,000	(前年	580,000)
〔初等教育専攻〕	年額	教育充実費	300,000	(前年	300,000)
〔ジュニアスポーツ教育専攻〕	年額	施設設備費	160,000	(前年	160,000)
		計	1,220,000	(前年	1,220,000)
③ 東海第一幼稚園					
④ 東海第二幼稚園					
		毎月の保育料等			
		保育料	24,885	(前年	24,885)
		教育充実費	7,900	(前年	7,850)
		教材費	1,995	(前年	1,995)
		計	34,780	(前年	34,730)

以上